

【シリーズ】いまだから伝えたい、空襲・戦争のこと

ふじまひろお

第1回 藤間宏夫さん

78年前の12月8日。

アジア太平洋戦争がはじまりました。

そのわずか半年後、日本本土は初めて空襲を受けました。

その後も戦局はどんどん悪くなり、1944年に入ると、マリアナの基地から飛び立ったB29が連日のように日本を空襲するようになりました。

そして1945年3月10日、「東京大空襲」。

空襲は東京だけでなく全国各地におよび、8月には原子爆弾が投下され、戦争は終わりました。



藤間さんが東京大空襲を体験した
日本橋周辺の焼け跡

あれからもうすぐ75年。その空襲・戦争を生き抜いた方々はどんどん少なくなっています。でも、世界では空爆がいまだにくり返され、人びとの犠牲も続いています。そんな今だからこそ、空襲や戦争のことを、次の世代に語り伝えておきたい。そんな空襲体験者たちの想いと体験をできるだけ多くの方々にうけとってもらうために、このたび、体験者とじっくり語り合える企画を立ち上げました。

今後、他の体験者にも登場していただき、定期的に続けていきます。

第1回にご登場いただくのは藤間宏夫さん。藤間さんは6歳の時に日本橋で東京大空襲を体験しました。また、それから2か月後の山の手空襲、そして疎開した先の静岡でも空襲を体験しました。空襲のこと、家族のこと、生活のこと、疎開のこと、戦後のこと、そして平和への想いを、藤間さんにじっくり聞いてみませんか。

日時：12月8日（日） 13:00～15:30

内容：映像鑑賞、藤間宏夫さんのお話

→座談会形式などで自由に質問&トーク

※中途退出、展示見学も可

場所：東京大空襲・戦災資料センター

1階 映像講話室

参加費：通常入館料のみ

大人 300 円、中高生 200 円、小学生以下無料

アクセス：右図およびホームページを参照

東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4

Tel 03-5857-5631 / Fax 03-5683-3326

Web <http://www.tokyo-sensai.net/>

